

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 3. 展示

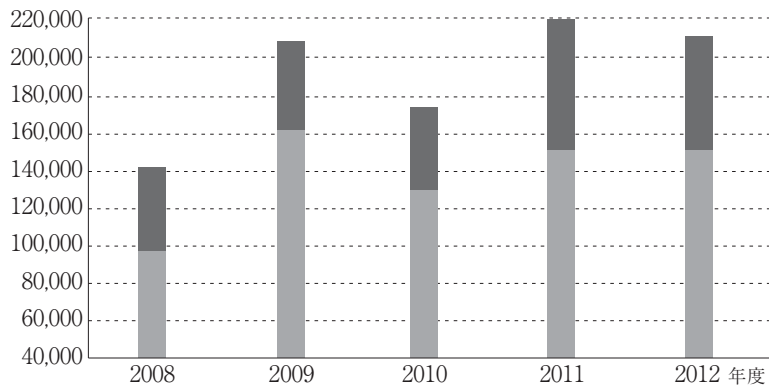
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5051">http://hdl.handle.net/10502/5051</a>

# 3 展示

## 入館者数

●2012年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 210,543人

●本館入館者数（5年間）



年度	個人	団体	合計
2008	97,926	44,377	142,303
2009	161,300	47,172	208,472
2010	130,866	45,122	175,988
2011	152,024	67,856	219,880
2012 年度	151,339	56,308	210,543

## 本館展示

### ●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

### ●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー	(五十音順)
オセアニア展示	Peter J. Matthews	印東道子 須藤健一	菊澤律子 丹羽典生 久保正敏 林 勲男 小林繁樹 白川千尋
アメリカ展示	齋藤 晃	伊藤敦規 関 雄二	岸上伸啓 八杉佳穂 齋藤玲子 鈴木七美 鈴木 紀
ヨーロッパ展示	宇田川妙子	庄司博史	新免光比呂 森 明子
アフリカ展示	飯田 卓	池谷和信 吉田憲司	小川さやか 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子
西アジア展示	山中由里子	上羽陽子	菅瀬晶子 西尾哲夫
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈	笹原亮二 寺田吉孝
言語展示	庄司博史	菊澤律子	西尾哲夫 八杉佳穂
南アジア展示	三尾 稔	上羽陽子	杉本良男 寺田吉孝 南 真木人
東南アジア展示	信田敏宏	樫永真佐夫 福岡正太	佐藤浩司 関本照夫 田村克己 平井京之介 吉本 忍
中央・北アジア展示	小長谷有紀	池谷和信	佐々木史郎 藤本透子
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	朝倉敏夫	太田心平	
東アジア展示（中国地域の文化）	塚田誠之	韓 敏	小長谷有紀 田村克己 陳 天璽 野林厚志 横山廣子
東アジア展示（アイヌの文化）	佐々木史郎	伊藤敦規	岸上伸啓 齋藤玲子 吉田憲司
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信 野林厚志	近藤雅樹 廣瀬浩二郎 笹原亮二 庄司博史 陳天璽
情報・インフォメーション	野林厚志	飯田 卓	田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太
イントロダクション展示	日高真吾	齋藤玲子	山中由里子 吉田憲司

## ●特別展・企画展・ワーキンググループ、本館展示新構築総括チーム等

飯田 卓 上羽陽子 齋藤玲子 日高真吾 南 真木人 山中由里子 吉田憲司

## ●本館展示の新構築（展示チームは2013年3月現在）

## アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 小川さやか 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子  
吉田憲司

## 内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

## 西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

## 内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

## 音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

## 内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

## 言語展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 庄司博史

音楽展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

## 内容

音声や身ぶりを媒体とすることは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性などを生みだすことは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

## オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー Peter J. Matthews

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 白川千尋

須藤健一 丹羽典生 林 勲男

#### 内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

#### アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 齋藤 晃

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤玲子 鈴木七美 鈴木 紀  
関 雄二 八杉佳穂

#### 内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

#### ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

#### 内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

#### 情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

#### 内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんぱくの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんぱくの研究って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

#### 東アジア展示(日本の文化)「祭りと芸能」「日々の暮らし」

一般公開 2013年3月22日～

東アジア展示(日本の文化) チームリーダー 日高真吾

東アジア展示(日本の文化) チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史  
陳 天璽 野林厚志 廣瀬浩二郎

#### 内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれている。こうした環境のなかで、隣接する諸文化の影響をうけながら、さまざまな地域文化が展開してきた。ここでは、「祭りと芸能」、そして「日々の暮らし」というふたつの角度から、特色ある、それら文化の諸相を展示している。

## 特別展示・企画展示など

## ●特別展

## 第31回「今和次郎 採集講義——考現学の今」

- 会 期 2012年 4月26日～6月19日  
 会 場 特別展示館  
 主 催 国立民族学博物館  
 特別協力 工学院大学図書館  
 協 賛 財団法人千里文化財団  
 後 援 社団法人日本建築学会、社団法人日本建築家協会、社団法人全日本建築士会、日本生活学会、日本民俗建築学会  
 協 力 青森県立美術館、パナソニック汐留ミュージアム、株式会社青森スタジオ、株式会社商華堂、日本万国博覧会記念機構  
 入場者 26,893名  
 実行委員長 久保正敏  
 実行委員 (館内) 朝倉敏夫 飯田 卓 小林繁樹 近藤雅樹 佐藤浩司  
 (館外) 岡本信也(野外活動研究会) 岡本靖子(野外活動研究会)  
 萩原正三(工学院大学名誉教授) 黒石いずみ(青山学院大学)  
 小山茂樹(有限会社ブックポケット) 高橋晴子(大阪樟蔭女子大学)  
 横川公子(武庫川女子大学)

## 内 容

2011年10月から翌年3月にかけて、青森県立美術館、パナソニック汐留ミュージアムで開催の「今和次郎 採集講義」展の全資料を展示して、民家調査、考現学、建築設計、服飾研究、生活学など多岐にわたる今和次郎の活動を紹介した。加えて、考現学を継承する野外活動研究会の野外調査、さらに民博所蔵・展示資料を活用して、大村しげコレクションやモンゴル・ゲルの家財道具悉皆調査および住まいの再現、田中千代コレクション調査、ソウルやマダガスカルの住まいの家財道具悉皆調査とデータベースやマルチメディア・コンテンツによる仮想的再現、縮尺10分の1民家模型製作のための詳細な考現学的調査、などを展示した。これらの展示を特別展示場から本館展示および民博所蔵資料への索引として位置付けることで、物質文化研究の最前線と民博所蔵資料の豊かさを示し、観覧者に今和次郎の活動と民博の諸活動を再発見してもらう機会とした。

## 第32回「世界の織機と織物——織って！みて！織りのカラクリ大発見」

- 会 期 2012年 9月13日～11月27日  
 会 場 特別展示館  
 主 催 国立民族学博物館  
 協 力 北海道大学植物園・博物館、北海道開拓記念館、ところ埋蔵文化財センター・どきどき、新潟県津南町歴史民俗資料館、群馬県沼田市教育委員会、織物参考館・紫、長野県大鹿村教育委員会、東京国立博物館、高田装束研究所、野外民族博物館リトルワールド、株式会社豊田自動織機、トヨタ自動車株式会社、トヨタテクノミュージアム産業技術記念館、株式会社西山産業、石川県立白山ろく民俗資料館、大阪日本民芸館、香川県立ミュージアム、瀬戸内海歴史民俗資料館、株式会社美織、うるま市立石川歴史民俗資料館、沖縄県多良間村教育委員会、南風原町立南風原文化センター、株式会社今昔西村、新井淳一、石井香久子、上原美智子、沖山道、日下部啓子、関駒三郎、鳥丸知子、財団法人千里文化財団  
 入場者 25,654名  
 実行委員長 吉本 忍  
 実行委員 (館内) 上羽陽子  
 (館外) 井関和代(大阪芸術大学) 内海涼子(大阪成蹊大学) 大野木啓人(京都造形芸術大学)  
 金谷美和(国立民族学博物館外来研究員) ひろいのぶこ(京都市立芸術大学)  
 藤井健三(西陣織物館) 柳 悦州(沖縄県立芸術大学)

## 内 容

織物を織るという技術は、人類史の中核技術として古代から現代に至っており、産業革命やIT革命も織りの技術

の延長線上にある。本特別展では、織りの技術、織機構造のカラクリ、織物の実像などをあきらかにし、世界各地で収集された織機と織物を展示するとともに、入館者が織りを体験することができる場（体験ひろば）をもうけた。これは、展示資料を見るだけでなく、さまざまな織りのカラクリを自らのからだや小型の簡易型織機模型などを使って実体験することによって、織りの技術、道具としての織機、織物がいかなるものであるのかということを知ることができる展示の試みである。また、本館共同研究「手織機と織物の通文化的研究」の成果として、これまでに知られることのなかった多くの情報を展示や関連イベントを通じて公開した。

#### ●企画展

##### 「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」（人間文化研究機構連携展示）

会 期 2012年9月27日～11月27日

会 場 企画展示場 A

プロジェクトリーダー 日高真吾

##### 内 容

東日本大震災の甚大な被害により、地域コミュニティそのものの存続があやぶまれるなかで、被災地では例年以上に祭りや芸能の奉納が活発におこなわれた。それは、人間の「生」としての、有形・無形の文化遺産の価値をあらためて認識させられる出来事であった。本館も、同じ人間文化研究機構に属する国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館などと連携し、復興の支援に関わってきた。この企画展では、文化遺産の復興の作業に目を向け、私たちにとっての文化遺産の意義を見直すとともに、その文化遺産を通じて、この地震・津波災害の記憶と経験をいかに未来に継承し、次代の社会を築き上げていくのかを考える契機を提供した。

本企画展は、人間文化研究機構連携展示として、国文学研究資料館でも2013年1月30日から3月15日まで開催された。

#### ●国際連携展示

##### 「75年ぶりの帰郷——1936年蔚山達里」

会 期 2011年11月29日～2012年4月29日

会 場 蔚山博物館（韓国）

入場者 85,692人

プロジェクトリーダー 朝倉敏夫

##### 内 容

本館と韓国国立民俗博物館、蔚山市が共同推進する「蔚山達里100年学術交流事業」の一環として、1936年に蔚山達里でおこなわれた「朝鮮の農村衛生」調査に同行したアチック・ミュージアムのメンバーが収集した本館の「蔚山コレクション」約80点を中心に、韓国・蔚山博物館で特別企画展を開催した。1930年代、韓国の典型的な地方農村だった蔚山の風景や人びとの生活像の変化を展示し、現在の蔚山市にいたる発展の歴史と文化を探った。日本と韓国の博物館の学術交流事業の成果として、本展は好評を博し、2か月間会期を延長した。

#### ●共同開催

##### 国立民族学博物館コレクション 「ビーズ イン アフリカ」

会 期 2012年8月4日～10月21日

会 場 神奈川県立近代美術館（葉山）

入場者 14,267人

##### 内 容

アフリカのビーズに焦点をあてながら、ビーズの素材と変化、民族におけるビーズの役割などの本館の研究成果を通して、ビーズがアフリカの人びとの歴史や文化のなかでいかに深くかかわってきたのかを紹介した。また、本館所蔵資料から約200点を展示した本展は、本館展示（アフリカ・装う）の新たな展開を示すと同時に、2008年度「アジアとヨーロッパの肖像」展、2011年度「彫刻家エル・アナツイのアフリカ」展に続き、文化人類学と美術史、民族学博物館と美術館との新たな協調関係を見出す試みとなった。

#### ●巡回展

##### 「マンダラ展——チベット・ネパールの仏たち」

会 期 2012年7月14日～9月2日



会 場 石川県立歴史博物館

入場者 8,063人

内 容

マンダラは密教（タントリズム）で用いられる儀礼用祭壇であったが、時代とともに宇宙（世界）の縮図などの意味をもつようになった。この展示では、チベット、ネパール、日本のマンダラなどを用いて、マンダラの構造と歴史を分かりやすく示し、「マンダラとは何か」という問いに迫った。今回の巡回展示は、2003年に本館で開催した特別展を展開したものである。

## 展示関連出版物およびプログラム

### ●特別展

『霧の森の叡智 マダガスカル、無形文化遺産のものづくり』

発行日 2013年3月12日

執筆者 飯田 卓、上羽陽子、内堀基光、大貫美佐子、吉田 彰、吉本 忍、ジャン＝エメ・ラクトゥアリスア、  
シャントル・ラディミラヒ

編集協力 石川泰子

編集発行 国立民族学博物館

『世界の織機と織物』

発行日 2013年3月29日

編 著 吉本 忍

編集協力 財団法人千里文化財団

編集発行 国立民族学博物館

### ●企画展

『記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産』

発行日 2012年9月27日

編 者 日高真吾

編集協力 財団法人千里文化財団

編集発行 国立民族学博物館

### ●ビデオテーク

・ビデオテーク番組

『イスラム教の礼拝と巡礼』（番組番号1318） 製作：国立民族学博物館

カイロ市内での金曜日の集団礼拝と、聖都メッカでくりひろげられる、年に1度の大巡礼。

『雲南省 ベー族の葬式』（番組番号1700） 制作監修：横山廣子

漢族地域ではほとんど見られなくなった、死者に対する子孫の孝の観念を色濃く残す葬礼の細部を雲南省大理盆地で収録している。

『誰も知らなかった国トッパ』（番組番号1701） 制作監修：小長谷有紀

世代の異なる4人の研究者たちが、トッパとの出会いや生活体験を語ることによって、その魅力を伝える。

『バスニ・カラン村の領主の暮らし』（番組番号1702） 制作監修：三尾 稔

インド西部のかつての戦士カーストの子孫が、今の領主の館を紹介し、昔の暮らしのようすを語る。

『バスニ・カラン村の女神祭礼』（番組番号1703） 制作監修：三尾 稔

インド西部の村で雨季明け（9月頃）に行われる祭り。女神に犠牲をささげ、豊作や村人の無病息災を祈る。

『ラージャスターンの戦士の霊 サガスパウジー』（番組番号1704）制作監修：三尾 稔

インド西部では戦死者の霊が霊媒に憑依（ひょうい）し、人びとの願いをかなえる。霊にインタビューを試みた。

『アメリカ先住民 ホピの銀細工づくり』銀板に重ね合わせる伝統（番組番号1705）制作監修：鈴木 紀、伊藤敦規  
アメリカ先住民ホピに伝わる銀細工づくり。その独特な制作技法と作品に表されるホピの伝統や世界観を見てみよう。

『被災した民俗資料の保存修復 石川県穴水（あなみず）町指定「明泉寺台燈籠（みょうせんじだいとうろう）」』（番組番号1707）制作監修：日高真吾

能登半島地震により倒壊（とうかい）した穴水町指定文化財「明泉寺台燈籠」。研究者や職人など、さまざまな人の手を通じてよみがえる。

*Kulintang Gong Music from Mindanao in the Southern Philippines*（番組番号3694）制作監修：Usopay Hamdag Cadar, Terada Yoshitaka

Kulintang is a type of gong music in the Southern Philippines. The film portrays the music as played by Maranao people on Mindanao Island.

*Kakoolintang o Manga Meranao*（番組番号8007）制作監修：Usopay Hamdag Cadar, Terada Yoshitaka

So kolintang na sabarang ko boniboni-an sa pagabagatan a Pilimpinas. Peki-ilay a pinikola ini so kakoolintang a Meranao sa Polo a Magindanao.

『21世紀の人びとが会う20世紀の都市 群山』（番組番号2804）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館  
植民地時代の建築物を観光資源として生かす韓国の都市、群山の現在の姿を映し出す。

『入隊』（番組番号2805）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

韓国の2人の学生が臨む兵役。入隊までの数日間を追う。

『トッポギ 追憶を食べ現在を語る』（番組番号2806）製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

トッポギの屋台は、小腹を満たしたい若者や思い出の味を懐かしむ人で賑わう。

『21 세기 사람들이 찾는 20 세기 도시, 군산』（番組番号8008）製作： 국립민족학박물관, 한국국립민속박물관  
식민지시대 건축물을 관광자원으로 살려낸 한국의 도시, 군산의 현재 모습을 화면에 담았다.

『입영』（番組番号8009）製作： 국립민족학박물관, 한국국립민속박물관

병역을 맞이하는 두 명의 한국 대학생. 입대까지 수일간을 따라가보다.

『떡볶이 추억을 먹고 현재를 말한다』（番組番号8010）製作： 국립민족학박물관, 한국국립민속박물관

떡볶이 포장마차는 배를 채우려는 젊은이들이나 추억의 맛을 그리워하는 사람들로 북적거린다.

#### ・研究用映像資料

『ものとかぞく「2002年ソウルスタイル」の記録』（番組番号7158）制作監修：朝倉敏夫、佐藤浩司

ソウルのアパートに住む平凡な家族がすべての持ち物を博物館に展示することになった。物を通してみえてきた家族のきずな。

『ウダイプルの女神祭礼』（番組番号7218）制作監修：三尾 稔

インド西部の女神祭礼は時代とともに様変わりしている。変化のようすや村と町の祭りの違いを紹介する。

『トゥバに魅せられた人々』（番組番号7219）制作監修：小長谷有紀

トゥバに魅せられて足しげくかようようになった研究者たちが、その現地での体験を語ることによって、ト



ウバの魅力伝える。

*Maranao Culture at Home and in Diaspora* (番組番号7220) 制作監修：Usopay Hamdag Cadar, Terada Yoshitaka

The film shows Maranao traditional gong music of the southern Philippines in its current context as affected by regional conflict and resultant diaspora.

*Olaola o Meranao sa Inged a go sa Kiaparakan Kiran* (番組番号7221) 制作監修：Usopay Hamdag Cadar, Terada Yoshitaka

Giya-i na pilikola a osayan ko kakoolintang o manga Meranao a go antona-a i miyambetad iyan sabap ko kiniparak iran imanto.

● 「みんなく電子ガイド」プログラム数 (2013年3月31日現在)

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	25	25	25	25
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	23	23	23	23
東アジア				
朝鮮半島の文化	39	39	39	39
中国地域の文化	16	16	16	16
アイヌの文化	8	8	8	8
日本の文化	15	15	15	15
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総 計	253	253	253	253